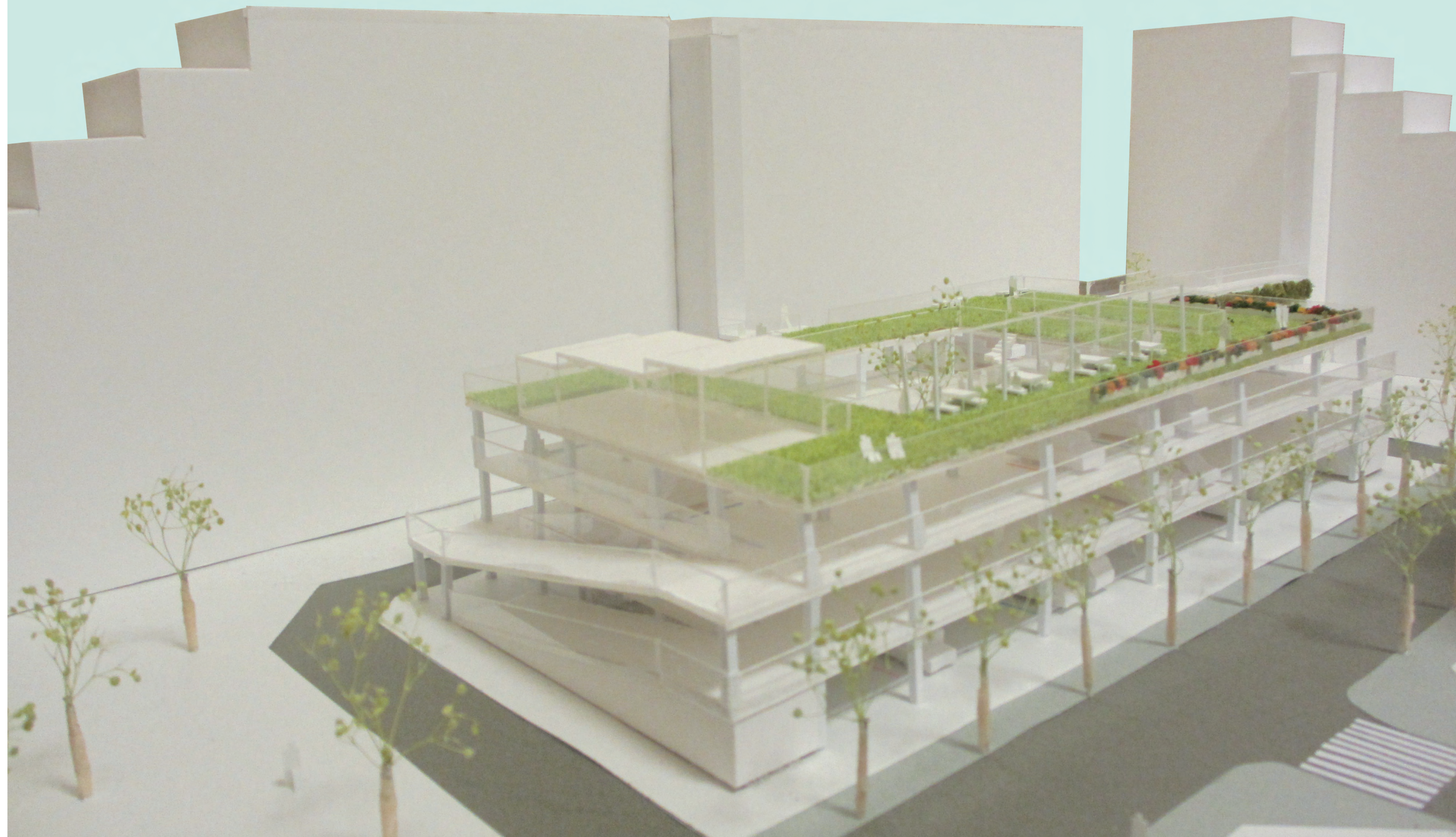


Park

～駐車する「まち」の公園～

「ひとつの集合住宅」という「まち」のコミュニティが、駐車場で生じる様々な「相互作用」で活性化される。



Site 東京都目黒区東山 三宿住宅 駐車場



縮尺 1/2000



1階 (光が入らず日中でも薄暗い)



2階 (屋根がなく1階よりも空車が多い)

Background

近年、この集合住宅では、隣の室に住んでいる人の顔を知らないということもあるくらい住人同士の繋がりが弱くなりつつある。同様な状況の集合住宅は、都心を中心として多く存在するだろう。他方で、公共交通機関が発達した都心では、車の所持率も使用頻度も減少傾向にある。このため、この集合住宅の駐車場は満車になることがなく、車の出入りも少ない。

集合住宅は1つの「まち」として捉えることができる。ただ車を止めるためだけの場所としてしか機能していない簡素で寂寥感の漂う駐車場が、集合住宅という「まち」の中心となり、「まち」の失われつつあるコミュニティの活性化を図る「公園」となれば、「まち」での生活が豊かになるだろう。同じ集合住宅の住人と会話しないで暮らすより、コミュニケーションをとって暮らした方が、生活が楽しくなるだろう。

Concept

「まち」での生活を豊かに楽しくする ^{park} 駐車場

Plan 現在の薄暗くて閑散としている駐車場を、明るくて活気のある空間にする計画を提案する。

Features

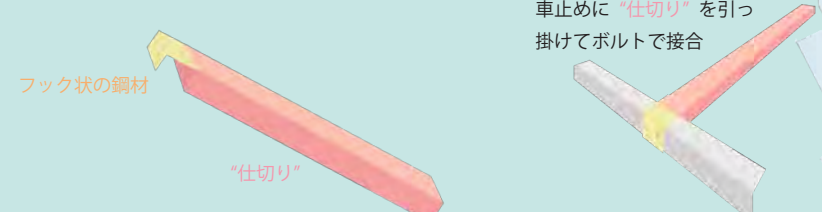
駐車場で寂寥感が漂う理由の1つが、車の所持率の減少に伴い常に空車となっているスペースが多いことである。そこで、空車であることを感じさせない工夫を施す。

車止め

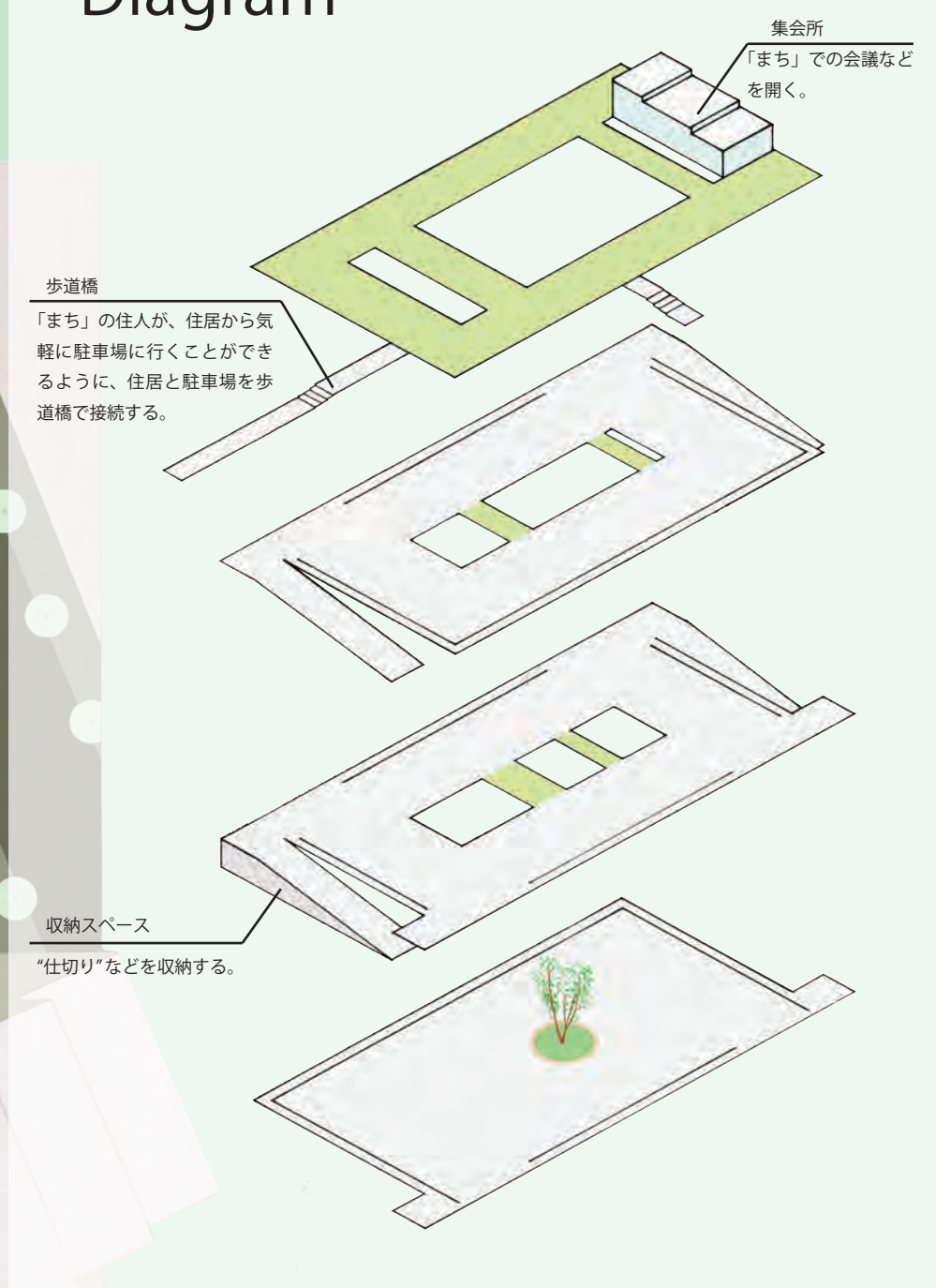
車止めは、線引きされた1つの駐車スペースのタイヤの前に2つ設置されることが多い。この印象があることで、このような規則的な間隔で配置された車止めを見ると、空車であるということを感じてしまう。そこで、この駐車場では、車止めは全て連続させる。

仕切り

駐車場では隣の車との境界に白線が引かれることが多いが、白線によって駐車スペースを区切ってしまうと、駐車している車がないときに空虚感を醸し出す。そこで、最初からすべて線で区切るのではなく、駐車をする車のあるスペースの両側にのみ「仕切り」を設けることで、空車のスペースを作らないようにする。この「仕切り」は、棒状で様々な色のものがあり、住人の好みで付け替えることができる。使用していない「仕切り」は、1階と2階を接続するスロープの下の収納スペースに保管する。



Diagram



Interactions

人 × 人
 駐車場で生まれるコミュニティが、「まち」での生活を豊かにする。

運転手 × 歩行者
 コミュニティ空間としての役割を持つ駐車場で両者が安全に共存するために、アイコンタクトなどのコミュニケーションをとることが必要となる。

人 × 駐車場
 人が駐車場をよりよいものにすれば、よりよい駐車場に人が集まるという好循環ができる。

車 × 駐車場
 車の形や駐車位置が駐車場の一部となり景色が変わり、駐車場の在り方が車の見え方を変える。

